

洗足徒然日記

こんにちは、洗足学園中学高等学校報道委員会です。今回は芸術鑑賞会の報告をします！

6月23日、私たちは日比谷にある日生劇場でオペラ、『ラ・ボエーム』を鑑賞しました。『ラ・ボエーム』とは、自由気ままに放浪生活をする人々のことを指す言葉です。パリのアパートの屋根裏部屋に住むお金のない芸術家とその恋人たちの出会い、友情、恋愛、死を描いた全4幕からなるお話です。私はまず、クリスマスイブの夜に出会った2人が恋に落ちるというロマンティックな設定に魅了されました。私が最も印象に残ったのは、物語終盤の第4幕、芸術家ロドルフォが恋人だった病弱で貧しいお針子のミミと別れてしまった後のお話です。2人はミミが道端で倒れたのをきっかけに再会します。その後、倒れたミミを運んできた放浪仲間の恋人のムゼッタが、自分のイヤリングを売ってまでミミの命を助けようします。最愛の人の死と向き合わなければならなくなったロドルフォの表情から見える切なさと、深い真の愛を感じることができるこのシーンが今でも印象に残っています。物語を通して、登場人物同士が歌で会話しているという新鮮さと、オペラ特有の高音の歌声には思わず引き込まれました。また、歌で登場人物の感情の起伏や人格を表現する素晴らしさを知りました。

事前の学習ビデオで、オペラの歴史や演者がどのような点を意識して演じているのかを理解し、場面の解説を聞いたため、実際にオペラを鑑賞する際に内容が分かりやすかったです。今回の芸術鑑賞会を通じて、普段は取っ付きにくいと思ってしまうオペラを身近に感じることができました。毎年、バレエやミュージカル、オペラなど様々な公演を堪能できるこの機会に感謝しています。



(画像出典元；日生劇場ホームページ)